

第6学年「総合」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 実生活の中から問いを作り、課題を設定し、改善の提案をすることができた。
○ 探究のサイクルを体験することができた。
- 課題** ▼ 一人一人の問いを大切にし、探究のサイクルを自身で回せるようにしていきたい。
▼ 実際に目で見て実態に即したフィールドワークを大切にしたい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 実社会や実生活の中から自ら問いを見だし、課題設定する力。
- ◇ 課題解決の見通しをもって情報を収集し、整理・分析してまとめ、表現する力。
- ◇ 協働的な学習の中で、互いのよさを生かしながら協力して解決しようとする力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 自己の生き方を考えていくための、単元の最終的なゴールイメージをもたせ、常にそこに立ち戻って課題を設定させる。

言語活動の工夫

- 調べて分かったことが課題に正対しているか、何度も振り返ったり、他の児童を共有したりする機会を設け、情報収集と整理分析の思考をより深め広げられるようにする。

ICT活用の工夫

- 自力解決や整理分析の手立てとして、タブレット端末を活用し、何度も書き直したり、書き足したりできる思考ツールを活用する

課題解決力育成の工夫

- 上記「言語活動の工夫」及び、「ICT活用の工夫」を十分に行うことで、課題解決力を自ら高められるようにする。

達成目標

- 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。
- 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。